



土

佐

打刃物

土佐打刃物の歴史

高知県は南海道に属し日本書記の時代より土佐国と呼ばれていました。

全国でも屈指の温暖多雨地であり、古くから良木に恵まれ、多くの木材を搬出してきました。それに伴って、山林伐採に必要な打刃物が古くから造られました。

また鎌倉時代後期、徳治元年(1306)大和国より移住の刀鍛冶、五郎左衛門吉光派が室町末期(1580)まで繁栄し、打ち続く戦国の乱世で武具刀剣等の需要に応じておりました。又彼等刀鍛冶の影響は農、山林用打刃物鍛冶とも技術的にもあいまって多くの鍛冶屋が土佐国内に点在していました。

天正十八年(1590)土佐一国を総地検した、長宗我部地検帳に、399軒の鍛冶屋が居たことが記されています。

土佐打刃物の本格的な隆盛は、江戸時代初期土佐藩の財政窮迫による、元和改革(1621)により始まります。藩は森林資源の確保や、新田開発の振興政策を遂行し、家老職野中兼山の農、山林収益策により農業林業用打刃物の需要が拡大し土佐打刃物の生産量品質共、格段に向上しました。

こうして鍛冶屋の切磋琢磨の貢献が、他に比類なき土佐打刃物を生み出しました。

土佐打刃物は多少の機械化は取り入れたものの、江戸時代の技術と伝統は、現代平成の世まで受け継がれています。



鎌

稲、草、柴などを刈ったり
灌木を切り倒すのに用いられる道具です。
種類は多く、
薄鎌、中厚鎌、厚鎌、造林鎌等があり、
それぞれに両刃と片刃があります。



北村 清次 作(天保年間)
坂本富士馬 作(明治初期)

沿革

土佐打刃物の中でも最も古い歴史を持っているのが鎌です。土佐鎌の源流は、天正の時代までさかのぼることができ、野口孫七郎が祖とされています。野口派は野鍛冶から鎌鍛冶に専門家していったといわれ、剃刀鍛冶から発展していった播州鎌が片刃であるのにたいして、土佐鎌は両刃鎌であることからみても、土佐鎌は刀剣鍛冶を源流にしていたように思われます。



包丁

料理をするのに用いる道具で、
菜切り包丁(野菜を切るのに使います)
出刃包丁(大きめの魚をおろすのに使います)
柳刃包丁(刺身を作るときに使います)
等があります。
それぞれに両刃と片刃があります。

沿革

包丁が文献に出てくるのは天正時代より明治に至るまでの捕鯨史を綴った「津呂捕鯨誌」であり、鯨の屠割道具として「大切包丁」「小切包丁」「筋仕成包丁」などが明記されています。また、当時を偲ばせる「手形包丁」は室戸市立市民図書館などで展示しています。

鉈

沿革

鳶・鉈・柄鎌

鳶・鉈・柄鎌等は古くから杣道具(山林伐採道具)として使用されており、安政4年に書かれた「御改正風土取締差出牒」(安芸市指定文化財)には杣の師匠が弟子上がりの時、杣道具一式を授けることがあり、その道具の中に鳶・鉈・柄鎌・鋸・斧等が明記されています。

枝打ちや小さい木を割ったり、
猪や熊の皮を剥ぐのに用いられる道具です。
腰鉈、剣鉈等があります。それぞれに両刃と片刃があります。





柄鎌

山林の除伐、枝打ち等に使用する道具です。
刃を石等から保護するために、
刃の先端部分が刃より出ているものがあります。

沿革

鳶・鉋・柄鎌

鳶・鉋・柄鎌等は古くから杣道具(山林伐採道具)として使用されており、安政4年に書かれた「御改正風土取締差出牒」(安芸市指定文化財)には杣の師匠が弟子上がりの時、杣道具一式を授けることがあり、その道具の中に鳶・鉋・柄鎌・鋸・斧等が明記されています。

鳶

切り倒した木材を転ばして運ぶのに使用したり、貯木場にて使用する道具です。





木を切り倒したり、
木を割ったりするのに
用いられる道具です。
根きり斧、割斧、
鉞斧(はつりおの)等があります。

斧

沿革

斧鍛冶は秦泉寺(高知市)に比較的集中しており、系譜を見ると文化年間の刀鍛冶“長運齋行光”まで辿ることが出来ます。斧をはじめ薦・鍬・柄鎌などの「ひつ抜き」を行なえるのは土佐鍛冶だけではないでしょうか。



田や畑を耕すほか、
除草や植林等に使用する道具です。
唐鋤、平鋤、又鋤等があります。

鋤

沿革

鋤を造ったとされる記述は古く、岡ノ内百尾の三社大明神 寛文7年(1667年)の棟札に「鍛冶百尾久介但地普請鋤皮是作也」とあり、また野中兼山が行なった「新田開発」等では多く使用されたと思います。

鋸

沿革

山林用の鋸である土佐鋸は、木材集散地であった片地(土佐山田町)を中心に生まれ、発展してきました。この地で鋸を造る技術が導入されたのは文化年間といわれており、鋸には片地の片の字をとり銘に入れています。

木を切り倒したり、木製品の加工に使用する道具です。
両刃鋸、山林用鋸、剪定用鋸、等があります。





高知県土佐刃物連合協同組合

782-0034

高知県香美郡土佐山田町宝町2-2-27
(土佐山田町商工会内)

Tel 0887-53-4111

Fax 0887-53-4113

URL <http://TosaHamono.com/>

E-Mail tosahamono@pdf-factory.co.jp